

安全安心に配慮した農業を目指して

～観光いちご園での JGAP 認証取得支援～

1 活動のねらい

千葉市には、いちご生産者は30経営体あり、都市近郊の立地を生かした直売や観光いちご園が盛んです。近年では、観光いちご園を始める新規参入者がみられており、毎年1～2経営体が新たにいちご栽培を始めています。

観光いちご園は、お客が園内で直接いちごを食べるため、より安全安心な農業が求められている他、顧客管理や人材管理等で運営が複雑です。そのため、GAPによる経営管理が有効です。このような中で新規参入者が経営する観光いちご園のA園で、JGAP 認証取得の意向がありました。そこで、この園を共同経営する2名の経営者が GAP の取り組みを実践し、観光いちご園での JGAP 認証の取得支援をしました。

2 課題の背景

これまで千葉市で観光いちご園が GAP 認証を取得した事例はありません。そこで、GAP の取り組み推進のため、令和2年度に若手いちご生産者を対象としたスキルアップ研修会を開催しました。この研修会で GAP についての講義を行ったところ、1経営体が GAP を活用し経営管理の改善を行ってきたいという意向を示しました。そのため、共同経営者2名の GAP への理解を深めることと、A園での GAP への取り組み方を検討する必要性がありました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 具体的なリスクの洗い出しと改善方法の検討

5月に経営者2名と企画振興課、改良普及課で、認証までの全体スケジュールの検討を行いました。いちごの農閑期の7～8月と定植後の10～12月に認証に向けての準備を行い、年度内に審査を受けることを目標としました。また、認証審査には費用が多くかかるため、千葉県農業生産工程管理推進事業補助金の活用支援をしました。

認証に向けての準備は、JGAP の管理点・適合基準の説明と現場確認から始めました。現状の管理方法を聞き取りながら、経営者2名と現場を確認することで、今まで気付かなかったリスクを見つけることができ、対応するべきことが明確化されました。

農場改善では、農薬の剤型ごとの正しい保管方法、従業員の休憩場所の確保、お客



写真1 農薬保管庫の確認

の動線等について、経営者と現場を確認しながら指導を行いました。特に観光いちご園では、毎日多くのお客が出入りするため、靴や手からの微生物・菌の持ち込みや、ハウス内への異物混入等のリスクがありました。そこで、お客が入ることで起こりうるリスクと対応について洗い出し、帳票にまとめるよう指導しました。帳票類の作成では、様式を提案し、経営主に原案を作成するよう促しました。



写真2 微生物・菌の持ち込み回避

個別巡回指導を繰り返すことで、農業経営管理の改善を進めることができました。認証審査を受ける準備が整ったことから、JGAP 認証審査を受けることになりました。

(2) 経営者2名のGAPへの理解を深めるための工夫

共同経営者2名がGAPへの理解を深めることが必要だと考え、農業経営体育成セミナーのGAP研修へ参加を促しました。研修では、実例に基づく現場改善の方法の講義を行い、JGAP 認証農家へ視察をしました。視察では、GAPの手法を用いた現場を見学し、帳票類をどのようにまとめているか、GAPを取得したことによる取引先の反応等を、経営者に話していただきました。その後、グループディスカッションを行い、「明日からできるGAPの取り組みは何か」というテーマで意見交換を行いました。

その後、A園の共同経営者2名には訪問を繰り返し、GAP認証に向けた打合せや現場確認をしました。また、GAPの取組内容を2人で確認・決定するように促しました。

4 今後の課題

GAPは認証取得が到達点ではなく、これからも継続的にGAPを行っていくことが重要です。そのため、今後も個別巡回指導により、現場確認や聞き取りを行い、経営者2名の経営管理の改善を支援します。また、優良事例としてこの経営体のGAPの取り組みを、GAP認証取得を目指す経営体に紹介し、GAPの推進を行っていきます。

5 担当者 千葉・習志野グループ 木村 明花音

6 協力機関 千葉市、JA千葉みらい